

そもそもそもそも 女性にとつての 髪とは？

自分？ 人？
髪は、
誰のためにある？



「髪は女性にとって大切な存在です。髪を失うことは、女性にとって大きなダメージです。だからこそ、髪を失った女性をサポートする活動が、社会には必要です。」

役のためなら、坊主になってもいい。
髪ならまた生えてくる、
そう思っていた自分は
とても傲慢でした

原田さん

そう思っていたのだと思います。

髪を育むことで
人と人の心をつなぐ

取材でお会いしたのは、キャンサーリボンズの理事を務められている岡山優子さんと、毎月寄付さんのおふたりです。岡山さんは、がん患者のサポートが主眼であるアメリカの活動にヒントを得て、キャンサーリボンを立ち上げた設立メンバー。宮月さんは、医療のプロフェッショナルでもありますが、がんではなく、肉腫という病気の治療に専ら眼毛の体験者として、プロジェクトに参画していらっしゃいます。

そもそも「キレイの力」プロジェクトとは、

阪神川ウィングを必要としている女性に届けたいことだけが目的ではありません。私が素晴らしいアイデアと共感したのは、看護学生たちが半年をかけて髪を伸ばし、その髪を使って作られたウィングをプレゼントしている

ということですが、これから医療の現場に出ていく学生たちは、どんな気持ちで髪の手入れをして、髪を伸ばしたのでしょうか。「髪を切った後の学生たちは、達成感で必ず笑顔よりキレイになっている」と岡山さんがいっように、授業だけではわからない、患者さんの身になって、自分の体を通して感じる、考える、という個別な体験となるのだと思います。ちなみに、私も「髪を伸ばして寄付したい」とお伝えしましたが、20代前半の髪でないと、ウィング型の髪にはならないそうなのです。残念。

「キレイの力」プロジェクトとは？



1 毎月1人が、ウィングを受け取った女性たちも、毎月1人が岡田さん、右から左の順が岡田多摩子さん、2 カウンサーを務める、神はしたあゆみさん、コヘアキョウ、学生たちのボランティアによるもの



4 ウィングはメッシュ社の協力による、ペーパードライヤーで乾かす。その後は、ブローイングウィングのようにしっかりと乾かす。

つげ蘭の工房を訪ねた後は、がん治療で脱毛した女性たちにウィングを贈る、NPO法人キャンサーリボンズとP&Gのボランティアの活動、「キレイの力」プロジェクトを取材しました。そもそもこの取材は、美容ジャーナリストの山崎幸子さんという方の話を、このページの担当者が聞いたことから始まりました。山崎さんは乳がんの闘病経験をもとにキャンサーリボンズの活動を支援している方なので、彼女がボランティアとして「髪の手入れ、ただあればいいものじゃないんですよね」という言葉が、担当者の胸にひっかかったさうなのです。「ただウィングがあるだけでは意味がない、自分に似合うウィングをかぶったとき、初めて女性たちは勇気やパワーをもらえる」。それは体験者にはわからないのでありそう言動でした。

その話を後日聞いたとき、自分自身がどのように髪とつき合ってきたのかを聞いてみられているような気がしました。髪は、あつてあたり前自らのもの、

「キレイの力」プロジェクトを応援しませんか？

ウィングの費用は、P&Gボランティアは、企業や団体、個人の方からの寄付でまかなわれています。さらに多くの女性にウィングをお贈りするのために積極的にご支援くださるサポーターを募集します。

「キレイの力」サポーターシップ (11,500円/1年間)

(お申し込み方法)
下記URLから「キレイの力」サポーターシップ申し込みと明記の上、お名前、お電話番号、住所、お電話番号を、お申し込みください。
〒101-8015
東京都中央区築地1-6-4
5F 株式会社メイト内
キャンサーリボンズ事務局
TEL:03-3546-6101
FAX:03-3546-4914
e-mail:
info@pinkribbon.jp
詳細はホームページ
http://www.pinkribbon.jp/で
サポーターの募集には
ウィングを受け取られた
方々からのメッセージ等を
年に1回お届いたします。

美しい髪が
まわりを元気にする

この取材を通して感じたのは、髪を
扱うことは、自分らしさがなくなると、
むしろかすると、その人でなくなると、く
らいの大きな変化があるという事です。
栗川先生からは、10年前に髪毛を
体験したとき、「ウィッグをかぶると、

自分より髪が喜んでた」というまで
ソレドを伺いました。女性にとって、
髪はその人自身のとても大きな存在
で、だから自分にもまわりにも影響力
があるのです。このプロジェクトを通
じて、自分にびびりたりのウィッグを受
け取った女性たちは、きっと顔笑みに
指差を道めていく心のパワーを受け取
ったと思います。

私はこれまで「髪のためなら、
髪を削ってもいい。髪ならまた生えて
くる」と思っていました。病気治療の
ために髪を失うことが、自分に起こり
うることはあるとわかったのです。そ
れは、髪である者の髪うだったと今
は思います。女性の3人にひとり、
がんになる時代です。決して他人事で
はありません。

栗川先生から「髪は、人の心とつながる」とい
う話を聞いて、一度ためらったとい
う話をしてもらいました。大げ
さな話、いう声もスタッフの間でも
あったそうです。栗川先生と先生と
さん、ご家族、そして支那のみなさん
の心に勇気を与える髪は、「それ
イの力」そのものだったし、今は感じ
ていらっしやるのではないのでしょうか。

プロジェクトを通して、2001年11月
1日の日にウィッグを贈ることは後述
で詳しく、日本大西式の
株式会社からお話を伺っています。

女性にとって、
髪はその人自身。
だから、自分にもまわりにも
力を与えられるのです

栗川さん



取材を終えて

栗の柳の先生は、「心の芯がえしつかりしておけば、体はあとから
ついてくる」ということをよくおっしゃっていました。心と体は相
互に影響し合っていて、切っても切れない関係にあるものです。今
回ふたつの取材を通して、体、つまり見えているものの代表選手の
ような髪は、体だけでなく、心の健康状態まで確実に表すものだと思いま
した。髪という、線を、を引き立てる。顔線、だけではない、もっと大き
な存在だと。



プレゼントのウィッグは
サイズ・色・髪の長さを選び、
希望のヘアスタイルに
仕上げるセクサータイプ。

「見た目を美しく素敵にできれば、
心も元気になってくるはずですよ」

栗川さん

女性が髪を失うとき、それは気分が落ち込むだけでは済まず、自己のア
イデンティティまでも失ってしまうことなのかもしれません。だか
ら逆を返せば、髪が素敵になり、力を持ったとき、その影響力ははかりし
れないものになるはずですよ。外側から内側に働きかけて、「見た目」を大
切にすれば、心も元気になってくる。今までの色とは反対に、そんな逆
転の発想に期待して、これから自分の髪と向き合っていきたいと思えます。
まずは、大切に作られた櫛で、髪を大切に扱うことから。



「髪は必ず試してから選ぶべき
です」と栗川さん。同じ種類の
タイプをチェックする栗川さん。